

派遣された職員から報告します

平成 28 年（2016 年）熊本地震復興支援職員派遣

小山 錠二 志布志支所産業建設課長
(派遣当時建設課長補佐)

平成 28 年（2016）年熊本地震から先月で 1 年が経過しました。
志布志市は、平成 29 年 3 月 31 日まで、29 人、延べ 511 日間の職員派遣を行いました。このうち宇城市に 9 か月派遣された職員から、被災地の状況や活動内容等について報告します。

熊本県宇城市は、昨年 4 月 14・16 日に最大震度 7 を 2 度観測した熊本地震により、大きな被害を受けました。私は、市長からの「志を届けて」との指示を受け、昨年 7 月から今年 3 月までの 9 か月間、公共土木災害復旧事業の復興支援として派遣されました。

宇城市は、布田川、日奈久断層帯の直下型地震により、道路や河川等の公共土木施設に甚大な被害を受けていました。特に、交通基盤である道路では、上下水道の破損、ブロック塀や家屋等の倒壊による瓦礫処理に不眠不休の対応に追われたとのことでした。

今回の復興支援は、地震による道路の段差、沈下陥没、空洞化等による路面の災害復旧を行うものでしたが、被災か所は大小数千か所にも及びました。

そこで、まずは技術者として初心に戻り、さらに、全体の奉仕者としても原点に戻り、何事も素直に聞く事で地区や路線名を覚え、少しずつ地域に慣れ、職場に溶け込むよう努めました。その成果として、被災を受けながらも共に働く宇城市職員から温かく「おもてなし」され、昨年の夏の茹だるようなアスファルトの上での戦いも何とか乗り切ることができました。

11 月以降、民間の家屋解体が始まると、市内の工事請負はピークを迎え、市民からは家屋解体を急ぐ声が聞こえました。公共工事の工程にも大きく影響し、復旧内容や工期を見直しながらも、任された現場は何とか 3 月末までに完了することができました。

そのような中、復旧を急ぐために家屋の公費解体への費用の上乗せが行われたり、住宅再建の費用も坪単

価が 1.5 倍を超えるなど高騰し、いわゆる「被災者の格差」が広がっている状況でした。親と同じ敷地に暮らす職員でさえ、損壊を受けた親の住宅の再建を支援する余裕は無いと聞きました。

公共施設等は、粛々と災害復旧作業が進んでいます。しかし、市民一人ひとりにとって、地震災害は台風や豪雨とまったく異なり、いつ、どこで、何が起きるか全てが想定外であり、生活の基盤を根本から大きく変えられています。

熊本の復旧復興はまだ始まったばかりで、「もとの生活に帰りたい」という声に対し、住宅再建への道りは永く感じられました。

宇城市職員の方々から「鹿児島県や志布志市から多くの支援活動や物資をいただき、本当にありがたかった」と感謝されました。また、今回の職員派遣も地震の「縁ですよ」との言葉に感銘を受けました。今後、この「縁」が「絆」となって、交流の架け橋になればと思います。

派遣後、志布志市に帰ると「大変だったね」と声をかけていただきましたが、返す言葉は「今もなお大変なのは、被災された熊本の方々です」しかありません。そのような多くの方が被災する中、自治体の職員が必要とされていました。今後、志布志市でもそのマンパワーは必要とされると感じました。

最後に、今回の復興支援職員派遣は、1 人ではできなかった事であり、職場や関係者の支え、家族の協力の下で職責を果たせたことに感謝いたします。

宇城市	概要・被害及び支援状況 (29 年 3 月末)
人口・合併	59,928 人・H17.1.15 (三角町、不知火町、松橋町、豊野町、小川町)
人的被害	死亡者(災害関連含む) 8 人、重症 47 人、軽症 95 人
家屋被害	罹災証明申請 8,349 戸(発行率 98.7%) 全壊 537 戸、大規模半壊 356 戸、半壊 1,946 戸、一部損壊 5,398 戸
被害金額	農林水産業 約 27 億円、公共施設 約 22 億円、商工業 約 81 億円
支援状況	義援金 2,813 戸、生活支援金 1,027 戸
住宅確保	仮設住宅 176 戸、みなし仮設 593 戸、応急修理 1,391 戸
市独自義援金	6,500 万円 (3 月 15 日現在)
家屋解体撤去	申請 2,485 戸、解体完了(公費、自主) 867 戸(35%) (2 月末現在)



お釈迦まつり



会場の宝満寺は竹灯籠のやさしい光に包まれました。*1



関西志布志会の皆さん、おかえりなさい。



愛らしい笑顔の子ども囃子



迫力のある太鼓の演奏(商店街ステージ)*2

*2 初舞台

Debut *1 製作者

Manufacturer



原田小学校の児童と同小学校を卒業した中学生が、新たな伝統を創り、校区を元気にしたいと和太鼓集団「原田和太鼓童 翔」を立ち上げ、お釈迦まつりで初舞台を踏みしました。

週 1、2 回の練習は、他の部活動と同じようにあいさつで始まります。音や構えを揃えるため、手にマメを作りながら稽古し、立ち上げ後半年足らずでの初舞台ながら、見事な演奏を披露しました。



祭会場の宝満寺を鮮やかに彩った竹灯籠とペットボトルの灯籠。祭りを盛り上げようと、地元東区のみなさんや志布志小学校の児童らが心をこめて作ったものです。また、「活動重視型デイサービス Re・らいふ(志布志町安楽)」の利用者の皆さんも、お釈迦まつりには行けないけれど、何かの役に立ちたいと 4 年前からペットボトル灯籠の製作をしてくださっています。